

# 包括的がんゲノムプロファイリング検査を受ける患者の 苦痛緩和支援プログラム開発研究



臨床研究

目標：✓包括的がんゲノムプロファイリング検査（CGP）を受ける患者の精神的苦痛を緩和すること

## 課題

- ✓CGP検査は、残された治療選択肢の少ない患者の大きな希望となっているが、実際に治療につながるのは10%未満である。
- ✓高額な検査費用、限定された実施施設、予期せぬ家族性腫瘍の発見や、難解な説明など、多くの課題がある。
- ✓抑うつ・不安の有症率が高い可能性が指摘されているが、日本における実態は明らかではなく、支援体制の整備が求められる。

## 実態調査

### 質問紙調査

目的：CGP検査が患者の精神的苦痛に及ぼす影響、および精神的苦痛に関連する要因を明らかにすること

対象：CGP検査の同意を取得した18歳以上の患者

期間：2023年2月-2025年4月

症例数：700例

登録施設：

国立がん研究センター中央病院  
栃木県立がんセンター  
順天堂大学医学部附属順天堂医院  
横浜市立市民病院  
富山県立中央病院  
名古屋市立大学病院  
京都府立医科大学病院

主要評価項目：

抑うつ

副次評価項目：

不安、QOL、抑うつに関連要因

予備調査の結果（中央病院）

抑うつ 同意取得時 13%

結果説明時 20%

## 支援開発

